

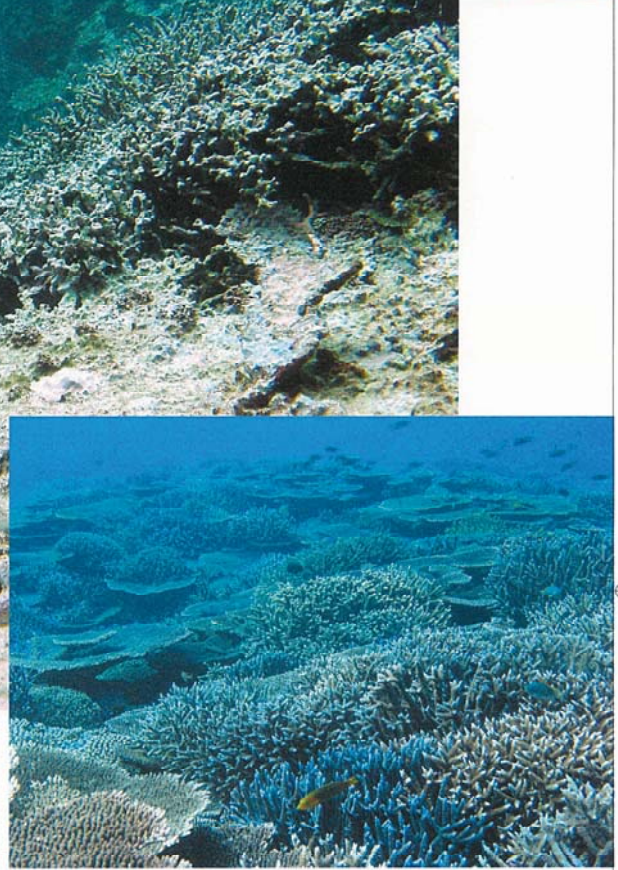
白化したサンゴ（座間味島・慶良間、1998年）



白化したサンゴ（大度・沖縄、1998年）



白化現象によりサンゴが死滅



いきいきとしたサンゴ礁

## 白化が続くとサンゴは

白化現象とは、様々なストレスを受けたサンゴが共生する褐虫藻を失うことにより、もともとは透明なサンゴ組織を通して白い骨格が透けて見えてしまう現象で、生態系に大きな影響を及ぼします。

## 死んでしまいます

### ◆白化はサンゴからのSOS

白化現象の主な原因は、普段より高い海水温や強い日射であることが分かってきました。白化の状態が長く続くと、サンゴは褐虫藻からの栄養分を受け取ることができなくなり、ついには死んでしまいます。白化は環境の急激な変化に苦しんでいるサンゴのSOSなのです。世界規模で高い海水温が記録された1997年から98年には、世界中のサンゴ礁が大きなダメージを受けました。琉球列島各地でも、1998年と2007年の夏から秋に大規模な白化現象が発生し、サンゴのみならず魚類をはじめとするサンゴ以外の生物が激減するなど深刻な問題となりました。サンゴの白化を引き起こす大きな要因の一つである海水温の上昇には、地

球の温暖化が大きく関係していると考えられています。温暖化はさらに進むとも予想されており、今後数十年のうちに地球の気温が2~3℃上昇すると予測している気象学者もいます。またCO<sub>2</sub>の増加が海水の酸性化という現象を地球規模で引き起こすなど、海の生態系への深刻な懸念も表明されています。こうなると、熱帯の海でサンゴが死滅していくだけでなく、地球全体の生態系が崩れてしまい、私たち人間を含む多くの生き物が深刻な影響を受けることでしょう。かけがえのないサンゴ礁を良好な状態のまま、続く世代に引き継いでいくための工夫や対策が、今の私たちに求められています。

### ◆CO<sub>2</sub>削減のための6つのアクション

地球の温暖化を食い止めようと、日本はその原因となるCO<sub>2</sub>（二酸化炭素）など温室効果ガスの1990年比で6%の削減を、世界各国が協力して作った京都議定書の中で約束しました。これを実現するために、環境省が中心となってチーム・マイナス6%という国民的プロジェクトを推し進めており、その取り組みの一環として、誰もが実践できる6つのアクションが紹介されています。



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6% [www.team-6.jp](http://www.team-6.jp)



①クールビズ、ウォームビズの実践を奨励。夏場の冷房、冬場の暖房に係る電力が節約できる。



②シャワーをこまめに止めたりするなどの節水を奨励。水道水の送水に使われる電力を節約できる。



③停車時のアイドリングストップとエンジンオフを奨励。排気ガス削減とエネルギー節約につながる。



④様々な分野で開発されているエコ製品の使用を奨励。とくに家電製品では節電効果大きい。



⑤未使用時にコンセントから電源プラグを抜くことを奨励。電気製品の待機電力を節約できる。



⑥買い物時の専用袋携帯を奨励。過剰包装やレジ袋の再生・破棄で発生するCO<sub>2</sub>の削減につながる。